
バカと魔法とドラゴンボールZ ~燃えつきろ!!熱戦・烈戦・超激戦~

ネガ・ナハト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと魔法とドラゴンボールZ ～燃えつきろ！！熱戦・烈戦・超激戦～

【Nコード】

N3207Z

【作者名】

ネガ・ナハト

【あらすじ】

ベジータ「この作品は「バカとテストと召喚獣」「魔法少女まどか マギカ」「魔法少女リリカルなのはStrikers」そして「劇場版ドラゴンボールZ燃えつきろ！！熱戦・烈戦・超激戦」の計四作品のクロスオーバー小説だ！全く、召喚獣だが、魔法だかなんだか知らないが、どっちにしろ俺の敵ではない。さっさと消え失せ…なんだ貴様ら ほうわあ！」

キーン！ドオン！ 例の岩盤ネタ

悟空「ベジータの奴しようがねえなあ。アイツらもかなり怒ってけど、あれが俗に言うキャラ崩壊つちゅう奴か？よう皆！オッス、オラ悟空！ 今回は色んな作品と共演してっからなあ。召喚獣に魔法。どんな戦いを見せてくれっかオラワクワクしてきたぞ！さあ皆！新しい戦いがはじまっぞ！」

ベジータ「おいお前ら、いくら何でもやり過ぎだ！加減してもんをぐわあああ！」

ブロリー「ふん、所詮クズはクズだ。」

ブローグ〜ドラゴンボールZ編

新惑星ベジータ

ブロー「カカロットー！」

ここでは五人のZ戦士達が伝説のスーパーサイヤ人ブローと戦い、
たった今激闘の末勝利をおさめたのであった。

勝った・・・！

誰もがそう思った。

だが、

突然巨大な光が現れて、その光はその場にいた全員を飲み込もうと
していた。

ベジータ「な、なんだ…この光は…！」

トランクス「僕達を飲み込もうとしている…！？」

ピッコロ「くそお、何とかならないのか…！」

悟飯「駄目だ…体が重い…！」

悟空「皆ー！オラに掴まれー！」

『『『うわあああああ！！』』』

ブロリー「カカロットー！」

そして、光が悟空達を飲み込んだ後、新惑星ベジータは、崩壊した
…。

ある一軒家にてー

悟飯「今日から五年生に進級かぁ。楽しみですねピッコロさん。」

ピッコロ「今年はお前のクラスの担任になれるかわ分からんぞ。」

悟飯「なれますよ。きっと。」

ピッコロ「フツ…だといいな。」

悟飯「それじゃあ、お父さん。僕とピッコロさんは、先に行きますよ。」

悟空「おう。オラ達も準備が出来次第学園に行くぞ」

トランクス「父さん。準備は終わりましたか？」

ベジータ「俺は終わったが…アイツらはどうした？」

悟空「おう、ベジータ。パラガスはもうとっくに行っちまったし、ブロリーも十分前に行ったぞ。」

トランクス「後は父さんだけだったんですよ。全く…制服に着替えるのに何分かけるんですか。」

ベジータ「うるさい！だいたい俺に制服は似合わん！去年笑い者にされたのを忘れたとは言わせんぞ！」

悟空「そう言うなよベジータ。進級式は必ず制服なんだからよ。」

トランクス「そうですよ。ほら、準備も出来たから行きますよ。」

ベジータ「チィ、クソツタレめ…！」

その後三人は舞空術で文月学園を目指した…。

プロローグ〜ドラゴンボールZ編（後書き）

ベジータ「ドラゴンボールのキャラの設定だ！良く読んでおけ！」

・悟空達は、文月学園の一年の頃の入学式の際にバカテスの世界に来た。

（ただし、なのはとまどか達は悟空達より一週間前に来た。）

・悟空、ベジータ、トランクス、ブロリーはFクラス。パラガスはFクラスの担任。

・悟飯は葉月と同じ小学校で、葉月と同じクラス。ピッコロは悟飯のクラスの担任である。

・悟空達は学校内では人類最強と思われる。現に魔法を上回り、更に召喚獣に触る事もできる。

・それぞれの得意教科は、悟空は文系（但し、英語は除く）。ベジータは理数系（但し、物理が比べて一番低い）。トランクスはAクラス並の学力を誇っている。ブロリーは英語と物理は得意。というか、悟空とベジータに比べて後の教科もCクラス並に出来てる。

・悟飯はクラスの学級委員長。

今のところはこんな感じです。

後から追加するかも知れません。

感想お待ちしております。

プロローグ／まどか マギカ編

あるマンションの一部屋―

ほむら「まどか…起きて。朝だよ。」

まどか「うん。今日進級式だから緊張して良く眠れなかったよ。」

ほむら「そう。でも早くしないと佐倉杏子が巴マミの作った朝食、まどかの分まで食べちゃうよ。」

まどか「それはダメー！」

マミさんの料理凄く美味しいんだからー！」

まどかは飛び起きて、部屋から出てリビングルームに向かっていった。

そのまま走っていたが、躓いてヘッドスライディングみたいになっってしまった。

さやか「おはようまどか。朝から元気だねえ。」

マミ「ホント。今日進級式だから緊張しているかと思ったけど、鹿目さん、元気そうだなによりだわ。」

杏子「ちっ…、後少しだったのに。」

まどか「杏子ちゃん本気で食べる気だったの!？」

杏子「いつまでも起きないまどかが悪いんじゃない。」

まどか「ええ〜そんなあ〜。」

さやか「杏子。朝からまどかをからかわないですよ。」

杏子「はいはい。」

マミ「はい。は一回よ。佐倉さん。」

ブロリー「はい。」

杏子「……え？」

さやか「ん？杏子。どうかしたの？」

杏子「今 誰かいなかった？」

マミ「え？誰もいなかったと思うけど。」

さやか「あなたの勘違いじゃないの。それより私の目玉焼き食べてない？」

杏子「あれ。アタシのハムが……」

マミ「そう言えはないわねえ」

マミ&mp・さやか&mp・杏子「……………」

まどか「あのさ……今のもしかしてブロ……」

さやか& a m p・杏子「学園に着いたらアイツぶっ殺すわ」「

まどか「えええ！そんなの無理だよ！」

ほむら「むしろ逆に血祭りにあげられそうね。」

さやか「大丈夫。食い物の恨みは奴の力を超える事もあり得るから。」

杏子「おう！さやかの言う通りだぜ！」

マミ「皆。色々楽しそうに会話してるのもなんだけど、早く行かないと遅刻しちゃうわよ。」

まどか「嘘！？もうそんな時間なんですか！？」

さやか「そうと決まったら、まどか！杏子！マミさん！ほむら！行くよー！」

杏子「オーーー！」

マミ「フフ。本当に楽しいわね。」

まどか「私朝食食べてない〜。」

ほむら「お弁当作ってあるし、足りなかったら分けてあげるから。」

まどか「ホントに！？ありがとうほむらちゃん！」

ほむら「さっ、行」。まどか。「

まどか「うん！じゃあ、 キュウベえ。お留守番宜しくね！」

キュウベえ「うん。行ってらっしゃい。ふわああ…眠い。」

五人の魔法少女達は、朝から元気良く走って登校するのであった…。

プロローグ／まどか マギカ編（後書き）

杏子「この作品におけるアタシ達の設定だよ。 よく読んでいた方が良いわよ。」

- ・文月学園の一年の入学式の時一週間前にバカテスの世界に来た。
- ・まどマギ本編で会う筈のないマミと杏子が会っているには訳があり、まどか達の話によると「悟空に良く似た人物が魔法少女達の未来を変える為に魔女達と戦い、更にワルプルギスの夜を倒して世界を救ってくれた。」とのこと。また、その人物が、マミ達を死なさずに救ってくれたおかげで本来とは違うハッピーエンドを迎えた。
- ・五人ともFクラスである。
- ・それぞれの学力は、まどかはCクラス並で二桁や一桁がない。ほむらは Bクラス並。マミはAクラス並。さやかはDクラス並で文系が得意が、理数系がほとんど二桁。杏子は理数系が得意が、文系は一桁、二桁。というより学力がFクラス並で一番バカなため、杏子一人だけFクラスは可哀想と思った四人が杏子に気遣って合わせたため、五人ともFクラスになった。
- ・同じ魔法少女であるなのは達とは気が合うが、メンバーや時と場合によっては争って、魔法で学園を壊す事もある。

以上がまどマギ達の設定です。

感想お待ちしております

プログラグ(リリカルなのはStrikerS編)前書き

始めに言っておきますが、作者はリリカルなのはの事が良く分かっています。おかしな点があったらいくらでも指摘しても結構です。

プロローグ／リリカルなのはStrikers編

アパート“神無月荘”
の一室から。

ここはアパート神無月荘の三階にある1016号室。

この部屋には、高町なのは、フェイト・T・ハラオウン、八神はやて、ヴィヴィオの四人が住んでいた。

ヴィヴィオ「なのはママ〜フェイトママ〜はやてさん、起きてよ〜。」

ヴィヴィオは四人を起こそうとして体をゆさぶっている。

なのは「う〜ん、ヴィヴィオ…今何時…?」

ヴィヴィオ「え〜とね、7時20分ぐらいかな?」

なのは「フェイトちゃん!はやてちゃん!起きて!遅刻しちゃう!」

フェイト「嘘!?!」

はやて「ほんまか!?!」

なのは「急いで支度しないと〜!あ、ヴィヴィオ!支度はできてる?」

ヴィヴィオ「うん。」

なのは「じゃあ御飯食べたらずぐエリオとキャロと一緒に保育園へ行って！」

ヴィヴィオ「ごはんならもう朝の5時から起きて作っておいたよ。あと、ママ達のお弁当も。」

なのは「オツケーヴィヴィオ！あなた凄くいい子だわ！」

フエイト「凄いと言うよりは……」

はやて「出来た子やな〜。」

ところ変わってこちらは正面から見て右隣の1017号室。

こちらも1016号室同様、朝から慌てていた。

この部屋には、ヴィータ、スバル・ナカジマ、ティアナ・ランスタ
ーの三人が住んでいた。

スバル「うわ〜！ティア！ヴィータさ〜ん！起きてくださ〜い！遅
刻しちやいますよ〜！」

ヴィータ「なんだと！」

ティアナ「ほんとなのスバル！？」

スバル「こんな緊急時に嘘なんかつけるわけないじゃん！」

ヴィータ「く…！仕方ない！ティアナ、スバル！急いで支度しろ！」

スバル「ええ〜！ご飯は！？」

ヴィータ「昼にお弁当を食べれば良いだろ！」

スバル「そんなあ〜（泣）」

更どころ変わって左隣の1015号室。

ここには、シグナム、エリオ・モンティアル、キャロ・ル・ルシエの三人が住んでいた。

こちらは6時に起きたのでのんびりとしている。

エリオ「隣が騒がしいですね。」

シグナム「主はやて達は寝坊でもしたのだろう。」

キャロ「シグナムさんは行かないんですか？」

シグナム「主を待つのも私の役目だ。」

そんな会話をしていると、扉をドンドンと叩く音がした。

なのは「エリオ！キャロ！シグナム！いる！？」

エリオ「なのはさん、ヴィヴィオちゃんですか？」

なのは「うん。いつも通りお願い！」

エリオ「じゃあ行こっか、キャロ。」

キャロ「うん。」

エリオとキャロはランドセルを背負った。

エリオ「じゃあシグナムさん。僕達先に行きますね。」

シグナム「分かった。」

エリオ「はい。行く、キャロ、ヴィヴィオちゃん。」

キャロ「うん。」

ヴィヴィオ「うん！」

エリオとキャロは小学校、ヴィヴィオは保育園を目指した。

スバル「うん、いつ見ても仲良いな。エリオとキャロの二人。私も燃えるような恋がしたいよ。ティア。」

ティアナ「バカな事行つてないで行くわよ。っていうかなによそのくわえたトーストは。みつともない。」

スバル「え、だってトーストくわえた女子高生が男子高生とぶつかってスカートの中の下着見られて、恋におちるって良く言っじや

ん。
」

ティアナ「待ちなさいスバル。あなた頭の病院行った方がいいわ。」

スバル「なんで!？」

ティアナ「ほら、なのはさん達行っちゃったじゃない!行くわよバカスバル!」

スバル「あ、待ってよティア!それとバカは余計だよ!」

新学期早々ツイていない魔法少女達だった……。

プロローグ〜リリカルなのはStrikerS編（後書き）

スバル「私達の設定だよ！よく読んでおいてね！」

・クラスは皆F組で、なぜそうなったか言っとスバルに合わせたからである。

・それぞれの学力は、

なのは 理数系が得意だが、文系が苦手。但し、国語系と日本史はフェイトよりできる。

フェイト 理数系が得意だが、文系が苦手。但し、英語と世界史はなのはよりできる。

はやて 文系が得意だが、英語と世界史は他と比べて低い。

ヴィータ Bクラス並。

シグナム Aクラス上位並。

スバル 現代国語と現代社会が得意。だが、あとの教科はまさにFクラス並。

ティアナ 数学と英語が得意。だが、あとの教科はまさにFクラス並。

・エリオとキャロは悟飯と葉月と同じクラス。

・ヴィヴィオは小学校に近い保育園に通っていて、登下校はいつもエリオ達と一緒にである。

とりあえずはこんな感じです。

今回は四作品集かな？

感想お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3207z/>

バカと魔法とドラゴンボールZ ~燃えつきろ!!熱戦・烈戦・超激戦~

2011年12月18日23時54分発行